

温室効果ガス排出量 検証報告書

2018年4月25日

富士電機株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター



1. 検証の対象及び目的

富士電機株式会社（以下「事業者」という。）が作成した「排出量算定報告書 2016年度」（以下「算定報告書」という。）に記載の2016年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）の以下の温室効果ガス排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ1 温室効果ガス排出量

国内、海外工場*1（以下「算定対象」という。）における事業者が使用したエネルギーの使用に伴って排出されるCO2排出量

2) スコープ2 温室効果ガス排出量

算定対象において使用した電力の使用に伴って排出されるCO2排出量

検証の目的は、算定方法に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成しCO2排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載されたCO2排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2006 (Greenhouse gases-Part 3: Specification with guidance for the validation and verification of greenhouse gas assertions)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載のCO2排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- CO2排出量の正確性を確認するためにサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された2016年度の温室効果ガス排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量		
富士電機東京工場	スコープ1	1,935 t-CO2
	スコープ2	7,338 t-CO2
富士電機機器制御吹上事業所	スコープ1	1,594 t-CO2
	スコープ2	4,811 t-CO2
富士電機松本工場	スコープ1	65,314 t-CO2
	スコープ2	5,586 t-CO2
富士電機津軽セミコンダクター	スコープ1	3,515 t-CO2
	スコープ2	24,213 t-CO2
富士電機三重工場	スコープ1	8,186 t-CO2
	スコープ2	7,454 t-CO2
富士電機川崎工場	スコープ1	1,358t-CO2
	スコープ2	5,483 t-CO2
富士電機鈴鹿工場	スコープ1	971 t-CO2
	スコープ2	5,442 t-CO2
富士電機(深圳)社	スコープ1	1,692 t-CO2
	スコープ2	32,170 t-CO2
マレーシア富士電機社	スコープ1	4,488 t-CO2
	スコープ2	59,125 t-CO2
フィリピン富士電機社	スコープ1	33 t-CO2
	スコープ2	8,686 t-CO2

NOTE:

- ※1：国内：富士電機東京工場、富士電機機器制御吹上事業所、富士電機松本工場、
富士電機津軽セミコンダクター、富士電機三重工場、富士電機川崎工場、富士電機鈴鹿工場
海外：富士電機(深圳)社、マレーシア富士電機社、フィリピン富士電機社

以上